

平成27年1月29日

消防局総務課

電話：0742-35-1199

平成26年度 奈良市消防団、DMAT、DPAT合同訓練の実施について

奈良市消防団では、消防団、DMAT（ディーマット）、DPAT（ディーパット）合同訓練を全国で初めて実施します。

■DMAT（Disaster Medical Assistance Team）

医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム。

阪神・淡路大震災で初期医療体制の遅れによる「避けられた災害死」が多くあったとの考えにより、“一人でも多くの命を助けよう”をテーマに各行政機関、消防、警察、自衛隊と連携しながら救助活動と並行し医師が災害現場で医療を行う必要性から、厚生労働省により、災害医療派遣チーム、日本DMATが平成17年4月に発足した。

■DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team）

自然災害等の集団災害の発生により、被災者に災害ストレス等による新たに精神的問題が生じる場合に、被災地域の精神保健医療ニーズの把握、他の保健医療体制との連携、各種関係機関等とのマネジメント、専門性の高い精神科医療の提供と精神保健活動の支援のために、都道府県と政令指定都市によって組織される、専門的な研修・訓練を受けた災害派遣精神医療チーム。

1 目的

奈良市消防団を対象に、地元自治会、女性防災クラブ、医療関係者、行政等の関係機関の参加を得て、奈良市における局所災害（大地震）を想定し、消防団による被災者の避難誘導、避難所での傷病者や精神科医療を必要とする被災者への初動対応処置ができる体制を確立することを目的とします。

これまで、他の自治体でも同一の総合防災訓練等に消防団、DMAT及びDPATが参加し、それぞれ個別に訓練活動する例はありましたが、今回は、実際の災害時に地域の防災・減災の中核を担う消防団が、専門チームであるDMAT、DPATとの連携訓練を実施することにより、地域防災力の強化、災害時における、よりスムーズな救援・救護体制の構築を図る、全国初の試みとなるものです。

2 訓練実施の背景

- (1) 平成25年12月、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立し、消防団を中核とした地域防災力の強化に取り組んでいるところです。
- (2) 平成26年7月、消防団員を対象にWHO版の心理的応急処置「サイコロジカルファーストエイド（PFA）」の研修を受講し、専門家以外でもできる心理的応急処置を習得しました。

- (3) 災害時には、それぞれの機関が単独では機能することが難しく、消防関係機関、医療関係、行政等が平時に【顔の見える関係づくり】をしていることが必要と考えます。

3 日 時

平成27年2月9日（月）15：00～17：30

4 場 所

奈良市法華寺町 254-1
奈良ロイヤルホテル（全館貸切、停電）

5 主 催 奈良市消防団

共 催 奈良市消防局

国立精神・神経医療研究センター 災害時こころの情報支援センター

6 内 容

(1) 被災想定

2月9日（月）午後3時10分、奈良盆地東縁断層帯を震源とする内陸型地震が発生、地震規模はマグニチュード7.0で震源の深さは約10km、奈良市内で震度6強を観測、甚大な被害が発生

(2) 実施項目

ア 訓練Ⅰ 避難誘導訓練

奈良市は災害対策本部を設置し、消防団は住居等（奈良ロイヤルホテル客室を仮想）から住民と観光客の避難誘導訓練を実施します。

【訓練Ⅰ参加者】

避難誘導（奈良市消防団11名）

避難者役（自治会自主防災組織、奈良ロイヤルホテル従業員、消防団員等
合計20名）

イ 訓練Ⅱ 避難所対応訓練 ※発災翌日の避難所を想定

・避難誘導を終えた消防団は、奈良市自主防災防犯協議会、女性防災クラブと避難所（奈良ロイヤルホテル宴会場を仮想）の対応にあたります。

・消防団はDMAT、救急隊と連携し、負傷者にトリアージの実施、救急隊の搬送協力を実施します。

・消防団はDPATと連携し、被災者に対して心理的応急処置を実施します。

【訓練Ⅱ参加者】

避難所対応訓練実施者（奈良市消防団30名、DPAT38名、DMAT等）

被災者役（女性防災クラブ、自治会自主防災組織、奈良市消防団、市職員等
合計110名）

その他、奈良市消防団長等による市災害対策本部及び避難所本部を設置

7 訓練詳細

別添